# 越境人

2014 AUTUMN vol.10
コリア国際学園 広報誌

特集1 KIS英語とコリア語のメソッドとは

特集2 夏休み、国内外の研修に飛び出すKIS生徒たち！
気仙沼／フィジー／韓国／フィリピン／アメリカ

特集3 国際バカロレア（IB）「日本語DP」を正式申請！
KISは、なぜIBを導入するのか

# 越境人 Contents 2014 AUTUMN Vol.10

デザイン：尹 浩子


2 特集1 KIS英語とコリア語のメソッドとは

10 特集2 夏休み、国内外の研修に飛び出す KIS生徒たち！
気仙沼／フィジー／韓国／フィリピン／アメリカ

14 特集3 国際バカロレア（IB）「日本語DP」を正式申請！ KISは、なぜIBを導入するのか

16 ACTIVITY REPORT
高等部3年の「多文化共生論」授業～課題解決型学習（PBL）を実施
2014年度前期大阪大学大学院生による教養・LA科授業を実施

18 NEWS REPORT
フィリピン・ミリアム女子大学付属中高生、KIS訪問＆交流
今年度前期も「哲学カフェ」を定期開催
土曜学校―大阪大学で授業＆卒業生の講演と韓国料理づくり
UNESCO School世界大会に向けた準備に拍車

20 SPECIAL REPORT
南太平洋・フィジー共和国の中高校と長期英語留学制度の実施へ
駐大阪神戸アメリカ総領事の招請講演会の開催／表敬訪問

越境人　2014年秋　第10号
・発行日　2014年10月12日
・発　行　学校法人コリア国際学園
〒567-0057　大阪府茨木市豊川2丁目13番35号
TEL：072－643－4200　FAX：072－643－4401
E-mail：contact-school@kis-korea.org　http://www.kis-korea.org/



※越境人は年２回の発行です。　※本誌記事を無断で転載等する事を禁じます。

DAIGEN Co.,Ltd.
株式会社ダイゲン　代表取締役社長　梅村忠幸
〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1丁目14番1号
TEL.06-6943-0081(代)　FAX.06-6943-6370

第元観光株式会社
■プレジール森ノ宮店
〒540-0003大阪市中央区森ノ宮中央1丁目14番1号
TEL&FAX／06-6941-3344
■プレジール若草店
〒579-8056東大阪市若草町4番6号
TEL.072-987-2833　FAX.072-985-7465

株式会社プレジール玉串
■プレジール玉串店
〒578-0932東大阪市玉串町東3丁目3番6号
TEL.072-961-7800　FAX.072-962-9001

株式会社ブレイクスルー
■和食居酒屋　菜蔵
〒540-0003大阪市中央区森ノ宮中央1丁目14番1号
TEL&FAX／06-6943-0895
■九州料理　のぼせもん
〒537-0025大阪市東成区中道1丁目1番11号
TEL&FAX／06-6976-3355
■BAR GIORNATA
〒537-0025大阪市東成区中道1丁目1番14号
TEL&FAX／06-7860-3175
■釜のや。森ノ宮店
〒540-0003大阪市中央区森ノ宮中央1丁目14番1号
TEL&FAX／06-6910-6155


## 建学の精神

# 境界をまたぐ「越境人」に。

21世紀の国際社会は、グローバル化と情報化が加速する一方で、政治・経済・社会・文化のあらゆる面において、解決すべき人類共通の課題にも直面しています。とりわけ東アジアは、その集約的な地域のひとつとしてダイナミックな変化が予見される歴史的な転換期にあります。

こうした時代状況を未来に向けて切り拓いていくためには、なにより個性と多様性の尊重を基礎とした創造力の溢れる人間が求められています。言い換えれば、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間の育成にほかなりません。

コリア国際学園（KIS）は、在日コリアンをはじめとする多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に考え学ぶことができ、かつ確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として複数の国家・境界をまたぎ活躍できる、いわば「越境人」の育成を目指します。

コリア国際学園（KIS）は、すべての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、コリアにつながり、世界に開かれた国際学校として、世界と東アジアの持続可能な発展に貢献します。

## 教育理念

### 多文化共生

民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。

### 人権と平和

人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。

### 自由と創造

真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

◆ 校章・シンボルマーク ◆

目であり
宇宙であり
太陽であり地球であり
そして　みつめていて、考えていて
そして　いつも　ゆれている

◆ デザイン・文 ◆

黒田 征太郎　Seitaro Kuroda
（イラストレーター）

くろだ・せいたろう ● 1939 年大阪府生まれ。'92 年にNew York へ移住。イラストレーターとしてポスターや挿し絵で数々の賞を受賞するとともに、壁画制作、ライブペインティングなど幅広いアーティスト活動を展開。
コリア国際学園の発起人のひとり。

◆ コメント ◆

色は　中心が　赤（火）（光）
その外が　黄（アジア）
その外が　草色（地）
その外が　青（天であり水）
としました

越境人 特集1

# KIS英語とコリア語のメソッドとは

グローバル化が加速する現代社会。
この時代潮流に無関心でありえても、もはや誰もが無関係ではありえない。
「境界をまたぐ越境人」へのパスポート。
KISでは、こうした時代を生き抜くための英語、コリア語、日本語の基礎を徹底的に学ぶ。
同時に、グローバル化は多様な人々との価値観のすり合わせや柔軟な行動力を必要とする。
KISでは、語学教育を通じてスキルとともに「対話力」と「しなやかな強さ」を育むことをめざしている。
英語の授業は週に10コマで、コリア語は5、6コマ。全体授業カリキュラムの約40%を占める。
中等部、高等部ごとに学年の枠を越えた習熟度別の4クラス編成の授業。
指導する専任教員はすべてネイティブ教員で、授業中の使用言語は英語、コリア語のみだ。
それ以外にも、とにかく英語圏や韓国への海外研修や国際交流の機会が多い。
KIS英語・コリア語教育が、どのような観点から実施され、具体的にどのような授業が行われているのか。
KISの英語、コリア語の授業メソッドについてレポートする。

## KIS英語

### 多様なアプローチを用いた生徒中心の授業

KISの英語科では、海外での英語教授法を視野に入れ、他国で通用する英語を念頭におきながら、生徒たちが無理をせずに自然に英語を身につけていく英語プログラムを組んでいます。当校での英語科の履修課程では、通常の授業形態はもちろんですが、課題を与えて生徒自身が自発的に考えたりグループで協働する授業や、「Schoology」などネットワーク上の学習アプリを用いた学習方法（イーラーニング）など、多様なアプローチを用いた生徒中心の授業を展開しています。

### 英語圏で用いられている教材にふれる

生徒たちは中学校の時点から、英語圏で用いられている教材にふれることで英語になじんでいきます。中等部の教材には、アメリカの児童文学作家マリー・ポープ・オズボーン作の『マジック・ツリー・ハウス』シリーズやジェフ・ブラウン作『フラット・スタンレー』シリーズなど、英語圏の生徒たちが読む教材が用いられています。高等部に上がると、ジョン・スタインベックの『真珠』やS・E・ヒントンの『アウトサイダー』などの英文小説をはじめ、国連の世界人権宣言、コリア・ヘラルド紙やジャパン・タイムズ紙の記事などに挑戦します。

テーマにそった学習方法は、英語という言語の習得をこえた全体的な学習方法であり、生徒たちは授業中に学んだ内容を、自分たちの実生活や環境と結び付けて考えることができるようになります。たとえば高等部の上級クラスで取り上げる全米ベストセラー小説『アウトサイダー』では世間から疎外された貧しい集団という社会的マイノリティの存在を認識し、『アンネの日記』ではユダヤ人がどのように差別を受け、悲劇的な出来事がおこったのかという歴史的背景を理解するようになります。

### 英語劇の上演や映画を創る

英語の授業では、世界人権宣言を題材にした授業も行っています。言うまでもなく、世界人権宣言は、第二次世界大戦後の1948年10月に国連総会で採択された「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の人権基準」を示した文書のことです。この宣言は、以降国連で採択された人権に関わる多くの諸条約や国連決議に大きな影響を与えた国際的な文書です。

この宣言を用いた授業では、言語的にその内容を解釈することは当然のこと、どのような歴史によってこのような人権宣言が必要になり作られることになったのかという社会的・歴史的背景や、その考えが生徒自身の人生にどのように関連しているのかということなどを考え、討論しながら、それぞれの条文が起草された

**来年は1年間かけて英語で世界人権宣言を読み解く。**

原因を検証します。授業では小さなグループに分かれ、個人の社会的・制度的関係性を通して、人権を守るプロセスについて学んでいきます。

来年度には、これまでの経験を踏まえて1年間かけて英語で世界人権宣言を読み解く授業へとさらにバージョンアップさせたカリキュラムを目指して準備しています。こうした授業は、ＫＩＳの教育理念の一つである「人権と平和」を、さらに一層内実化していくものでもあります。

また『真珠』や『アウトサイダー』などの小説を用いて、劇を上演したり、映画を撮影したりもしました。生徒自らが脚本を書き、演出し、クラスメートの前で披露したのです。このように、ＫＩＳでは教員が教室の前でレクチャーする受け身の授業ではなく、生徒たちが中心となり、自ら考えて行動することのできる授業内容を展開し、世界に通用する世界人を育てることをめざしています。

## 英語力を高める多様な海外研修や国際交流活動の実施

ＫＩＳ英語の特長の一つは、学んだ英語を海外研修や国際交流活動などで活用する機会やプログラムが多いことにあります。現在、高等部２年生全員が、カナダへの研修旅行に行くことになっています。現地の学校での授業を受けたり、ホームステイを体験します。また、選択プログラムとして夏休みを利用してのフィリピン研修では、姉妹校のミリアム女子大学付属中高校の通常授業の中に入ります。英語での授業をすべて理解できることがなくとも、そこで友人を作りながら、いわば、「サバイバル」の体験をしたりしました。

また、現地のＮＰＯが取り組む学校建設のボランティア活動への参加、英語での意志疎通もできない少数山岳民族アエタ族との交流なども経験しました。来年からは南太平洋のフィジー共和国にある中高校への長期英語留学制度も始まります（詳細はP20を参照）。

大阪大学留学生との授業や交流会、ミリアム女子大学付属中高校の生徒たちのＫＩＳ訪問、さらには今年９月には、英語科授業に米国のインディアナ州にあるカレッジの大学生がＫＩＳを訪問し、英語の授業に参加するなど、実際の英語を使ったさまざまな教育活動を実施しています。

（文責：英語科教員　ジョン・ホイル）

## 生徒が語るKIS英語

### 一番のキーポイントは、KISならではの生徒と先生の‘近さ’にある。

高等部３年　河光希

#### 授業はプレゼンテーションやグループワークなどが多い

KISの英語授業には生徒一人ひとりの‘積極性’が求められます。僕は６年間授業を受けながら’積極性’がいかに大事かを知ることができました。自分から積極的に参加した分、先生もその期待に応えてくれます。授業中は様々なことをしますが、特にプレゼンテーションが多く、グループワークや英語で資料を見て発表する練習が多いのです。そうした学習を繰り返しながら、次第に自分の英語力に自信を持てるようになりました。

6年間にわたり英語を学びながら感じた一番のキーポイントは、KISならではの生徒と先生の‘近さ’にあります。僕はよく先生方と英語で軽い冗談やコミュニケーションなどをとって少しでも多く英語を使うようにしていました。

#### 海外研修など学んだ英語を実際に使える環境がある

英語に関心を持ちはじめ、高等部１年の夏休みに行われたフィリピン研修に参加しました。英語が使われている国への初めての訪問であったこともあり、とても緊張しましたが、今までKISで学んできた英語を実践することができ良かった。また、言語だけではなく世界で起こっている貧困や格差などの社会問題も体感することができ貴重な経験にもなりました。高等部2年のときにはクラスメート全員でカナダ研修に行き、生身の英語を使う環境の中で過ごすことで、いろいろなことを感じ、次の目標、自分の未熟さなどに気づかされました。このようにKISには学んだ英語を実際に使える、さまざまなプログラムが準備されており、それらを通じて新しい文化に出会い、人と交流し、どんどん世界を広げていく環境があります。

さまざまな活動や研修の機会があふれているKISにはいろんな夢をもった生徒たちがいます。僕は中等部３年のとき、言語の楽しさに気づきパイロットという夢を持つことができました。それもKISでの魅力的な授業などがあったおかげだと思います。英語だけではなく、韓国語を将来活用したいと思い、韓国の大学への進学を希望しました。僕は中等部３年の韓国研修を機に韓国航空大学に訪問し、実際に入試方法などを調べ、それらの研究結果を学校でプレゼンテーションを通して、いろんな人に伝えました。こうした夢をシェアできる環境があるということが、KISの大きな魅力です。将来は民間航空会社のパイロットになり、世界の大空を駆け巡りたい。（その後、河光希君は韓国航空大学航空運航科に合格しました。）

## 教員が語るKIS英語

### 英語のスキルを学ぶことに加えてコミュニケーション力や異文化理解力などを育む。

英語科教員
ジェレミー・ハード

21世紀のグローバル化時代において、世界の「共通語」として英語を習得することは、将来のキャリアに備える生徒たちにとっては重要であることは言うまでもありません。しかし、もはや英語の文法や語彙についての知識を身につけるだけでは十分ではありません。競争が激しく、同時に協力的であることが求められる現在の国際環境において、言語を実際に使いこなせることに加えて、コミュニケーション能力、異文化を受容する態度・意識を育むことなどもまた、多面的な語学能力の一部となっているのです。

本校での英語プログラムは、この難しい時代に対応できるようにカリキュラムを組んでいます。英語科ではTESOL（英語を母国語としない人たち向けの英語教授法）の学士号や修士号を持つ、ネイティブ教員がプログラムを立案して授業を行っています。年3回の能力試験、2回の英検などを実施しており、これにより生徒と教員は個人および学校の能力を全国的な基準と比較して把握することができます。

本校の英語科は、生徒が英語でコミュニケーションをはかり、社会情勢や文化などについて日々の教育活動の中で気楽に、かつ効果的に会話する機会を提供し、単に言語能力を伸ばすだけではなく、グローバル化社会で必須となる社会・文化の多様性や異文化を理解し対応できる力を高めることに努めています。